

広報

ただみ

2

2014 月号

No. 525
平成26年2月10日

「自然首都・只見」学術調査
研究助成金事業成果発表会・・・2～5
消防団出初め式 他6～7
町の話8～9

今月の表紙

1月11日、新年を祝う歌舞「梁取蚕養万歳」、五穀豊穰、御家内安全等を祈願する「梁取早乙女踊り」が梁取地区で3年ぶりに行われた。

子供から大人まで多くの人がこの伝統行事に参加し、集落内の家々を巡った。

※写真は梁取早乙女踊り

只見の自然はすごい!



▲研究成果発表会のようす

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業の成果発表会は1月25日に朝日地区センターで行われ町内だけではなく町外、県外から約50名の参加者がありました。今年も助成金事業制度が出来て2年目の研究発表会で、学術調査の件数は昨年より4件よりも多い7件となりました。発表はこの日都合により参加出来なかった1件を除く6件となりましたが、どの研究も高度な内容で、発表を聞きこのような研究を行なう事が出来る只見町の自然資源の素晴らしさを改めて感じました。難しい内容ではありましたが発表後には、参加者から多くの質問が発表者に投げかけられました。今回発表された研究成果の主な内容を次のとおり皆さんにご紹介させていただきます。ぜひ多くの町民の皆さんがこの調査研究を通して只見町の自然の素晴らしさを知り、只見町って凄いところなんだという誇りを持っていただければと思います。

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業の成果発表会は1月25日に朝日地区センターで行われ町内だけではなく町外、県外から約50名の参加者がありました。今年も助成金事業制度が出来て2年目の研究発表会で、学術調査の件数は昨年より4件よりも多い7件となりました。発表はこの日都合により参加出来なかった1件を除く6件となりましたが、どの研究も高度な内容で、発表を聞きこのような研究を行なう事が出来る只見町の自然資源の素晴らしさを改めて感じました。難しい内容ではありましたが発表後には、参加者から多くの質問が発表者に投げかけられました。今回発表された研究成果の主な内容を次のとおり皆さんにご紹介させていただきます。ぜひ多くの町民の皆さんがこの調査研究を通して只見町の自然の素晴らしさを知り、只見町って凄いところなんだという誇りを持っていただければと思います。

「自然首都・只見」学術調査研究助成事業 成果発表会

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業について

只見町が昨年9月に推薦されたユネスコエコパークは、人と自然との共生を実現するために、①自然環境の保護・保全、②調査研究・人材育成、③社会経済の持続可能な発展(地域振興)の3つの目標を柱としています。このうちの②の目標ある調査研究・人材育成に位置づけ、「自然首都・只見」ブランドを確立するために科学的評価を行うとともに、住民への学習機会の充実、各研究機関との交流の推進、研究成果の活用を図ることを目的として、「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業を実施しています。

調査研究の対象分野は、只見町の生物多様性の保全・再生・活用に関する基礎研究から応用研究までで、持続可能な生態系サービスの活用や自然再生など、町内に存在する事象や課題に関連する研究などが対象で、具体的には下記のキーワードを含む事です。

【キーワード】 生物多様性・ブナ林・里地里山・河川・土壌・雪食地形・農業・林業
自然エネルギー・加工品・生態系サービス・持続可能な地域づくり

山地河畔林における大規模攪乱 (平成23年7月新潟・福島豪雨)後の植生更新

新潟大学大学院 環境科学専攻 新国 可奈子 さん



目的

水辺林とは、水辺近くに生育する森林帯のことで只見川や伊南川のような山間地を流れる河川で、谷底の広い氾濫原に生育する水辺林を山地河畔林という。現在、発生頻度の低い大規模攪乱(大洪水など)が山地河畔林の更新にどのような影響を与えるか明らかになっていない。

そこで①新潟・福島豪雨という大規模な河川攪乱が山地河畔林や森林内の環境などに与えた影響②大洪水後のヤナギ科樹木の初期定着過程を明らかにすることを目的に研究を行なった。

結果

伊南川流域(長浜杉沢)で調査を行った結果、調査区によって光環境(開空率)と水面からの高さ(比

高)は異なりヤナギ科樹木の^{みしょう}実生(種子から発芽し成長)は発芽初期に生存率が急激に低くなり、その後緩やかに下降する結果となった。昨年の調査結果を用いて統計解析を行なった結果、比高が最も実生の生残に強く影響している結果が得られた。

まとめ

大規模攪乱後の林分構造は、比高によって生木と被害木の分布を分けることができた。また山地河畔林が倒流木の捕捉機能を持っているという新たな知見が得られた。今回の大規模攪乱によって、立地環境が大きく変化したことで実生の発芽に好適な立地環境を広範囲に創出させ、季節的な洪水では生じえない^{ぼうが}萌芽(芽生え)更新を促進させたと考えられる。



なぜ只見では溪流沿いにもブナが多いのか — 年輪から見えること —

横浜国立大学大学院 環境情報学府 齊藤 真人 さん

目的

ブナは一般的には、山地の中でも安定した斜面や尾根に分布するとされるが、只見では場所によって山地の溪流沿いにもブナが多く分布している。これは他の地域とは違い注目に値するが、溪流沿いに生育するブナに関する情報は不足している。

そこで、①どのような溪流のどのような地形の場所にブナが多いのか②溪流沿いのブナは順調に生育しているのかという点を明らかにすることを目的とし調査した。

結果

叶津川水系や黒谷川水系など5ヵ所の溪流30調査区で調査を行い場所によってブナが多く出現する溪流、サワグルミなどブナ以外が出現する溪流が

あった。災害の影響を受けた調査区でも斜面と同様にブナは成木まで成長し、繁殖を行なっている個体が多かった。また、年輪の情報から最低でも100年以上生存しているブナが多くみられ、ブナの成長速度は溪流沿い、斜面においても良好な成長が見られた。

まとめ

多くの溪流沿いにブナが出現するが、西寄りの地域に特に多く見られた。理由の一つとして積雪深の違いが考えられる。ブナは雪に対する耐性が非常に高く、他の樹種が減少する場所でも生存できる。また、溪流沿いでも光環境が良ければ成長が良好である。雪解け水もブナが生育できる理由となっている可能性がある。

ブナ林の維持・再生に係るブナ個体の 生育条件の研究-積雪環境について

東京大学大学院 理学系研究科附属日光植物園

宮下 彩奈さん



目的

日本海側の山地にはブナが多く、しばしば他の樹種よりも優先的であるが、ブナがなぜ他の木よりも多いか、そもそもブナはどのような環境に適しているのか明確ではない。

そこで①ブナが種子から発芽し成長(実生)が続けられる光環境の解明②高木種の幹が破壊されずに成長できる積雪環境の解明を目的とし研究を行なった。

結果

調査は要害山の山頂付近で行い、光強度の測定や幹のひずみを測定した結果、ブナはある一定の明るさがあれば8割前後が生存できるがそれ以下では生存率が急落した。また幹のひずみ測定の結果、直径10cm以上の幹に倒伏を強いるような積雪環境が

高木種の生育限界である可能性が示唆された。雪による幹のひずみは本調査によって影響の詳細が明らかになりつつあるが、まず積雪期初期に細い木ほど冠雪の影響で変形するようだ。今後さらなる冠雪や斜面積雪の圧でより太い木などがどのような力を受けるか観察を続ける。

まとめ

日本海側のブナの生育可能性について、まず光環境で生育続行の可否が決まり、ある程度まで生育した後、幹が積雪の作用に耐えられるかどうかが決定要因になると考えられる。ただし雪崩斜面のような極端な環境では、実生の段階から定着が困難である可能性がある。幹の変形や積雪量のデータをまとめブナの生育環境を明らかにしたい。



ヒメサユリは雪国にどのように 適応して生きているのか？

首都大学東京 大曾根 陽子さん

目的

ヒメサユリの分布域はきわめて限られており、自生が確認されているのは豪雪地帯だけである。研究の最終目標はなぜ多雪地域に偏った分布をするのかを明らかにすることだが、まず①ヒメサユリの生育地に共通する特徴②そこでのヒメサユリの生活や生育の仕方について調べることにした。今回は積雪への対応という視点から考察する。

結果

浅草岳や只見スキー場など6カ所で調査をした結果自然度の高い自生地に比べ、スキー場など人為的管理が行なわれている場所ではヒメサユリの最大サイズが大きくなる傾向が見られた。しかし、種が出来る確率は人為的管理が行われている場所の方が低

くなる傾向が見られた。生育条件の良い場所では果実が主に食害によって失われていたからである。ヒメサユリ本来の自生地は人為的管理の行なわれない食害が起きにくい立地条件をもつ場所などと考えられるが人為的な生育地でも実生の定着のしやすさなどで保障されている可能性はある。

まとめ

多雪地域には雪田草原や雪食崩壊地など、ヒメサユリの生育に適した「開けた草地」ができやすい。ヒメサユリはこのような場所を自生地として人為的に作られた「開けた草地」にも生育するのだろう。しかし、自然的と人為的な生育地では花の大きさや種の出来やすさに違いが見られた。

只見町の冬虫夏草

～冬虫夏草からみたブナ林の生物多様性～

福島生き物探検隊 日本冬虫夏草の会 三田村 敏正 さん



目的

冬虫夏草は世界で約450種、日本には約350種が確認されており只見町はブナを中心とした非常に豊かな自然を有している為、多様な冬虫夏草が生息すると考えられるが、これまで町内の冬虫夏草について詳細な調査が行われたことはなかった。

そこで2009年から徐々に現地調査を始め2013年はブナ林を中心に冬虫夏草の調査を行なった。

結果

蒲生のあがりこの森や布沢の恵みの森を調査し2013年は13種の冬虫夏草を見つけた。2009年からの調査全体で合計28種を見つけこのうち4種は只見町初記録であり2種は新種候補である。

まとめ

只見町の冬虫夏草は、今回の調査も含めわずか5年ほどの調査で28種が発見された。このことは、只見町と同様にブナ林で有名な青森奥入瀬において極めて多くの種が確認されていることや冬虫夏草の宝庫と言われている福島市土湯で約50種が確認されていることを考えると、さらに多くの種が確認されると考えられる。

また、冬虫夏草は多くの種が昆虫を宿主としており、冬虫夏草の種類数はそこに生息している昆虫類の多少にも影響されると考えられ、冬虫夏草の面からも只見町の生物多様性を知ることができる。今回見つかった新種2種は追加記録を出すことで正式に新種となるのでさらなる調査が必要である。



“奥会津要素”

クロジクツクバネウツギって何？

首都大学東京 牧野標本館 加藤 英寿 さん

目的

奥会津地域はヒメサユリなど古い時代に分化して生き残ってきたと考えられる種が数多く分布し植物地理学上注目される地域である。数年前蒲生岳において、クロジクツクバネウツギ(以後クロジク)と思われる植物を確認したが、ウゴツクバネウツギ(以後ウゴ)に含められ、図鑑類には全く記載されていない。しかしクロジクとウゴは形態的に識別可能と思われる阿賀町と只見町でクロジクが確認されたことからヒメサユリと同等の分布を持つ“奥会津要素”のひとつになる可能性が高い。そこでこの植物の分布や生育環境を調査した。

結果

現地調査で採取したクロジクとウゴの標本を比較

した結果、葉や若枝・花数や花色に違いが見られ葉緑体DNAの解析の結果、ウゴとクロジクの多くはそれぞれ独立した計統群に分かれたが一部地域の個体は別の系統に含まれるなど複雑な系統関係を示した。

まとめ

以上の結果から、クロジクとウゴは異なる系統から由来し、現在は二次的に分布が接触した可能性が高い。両者の開花時期は多少ずれるが一部重なっており、混生集団では中間型が見られることから交雑が可能と思われる。

クロジクの由来を明らかにするには、さらに他の地域のベニバナノツクバネウツギ等を加え核DNAの情報も含めた解析を行なう必要がある。

只見町消防団出初め式



▲今年1年の安全を願う



▲ポンプ車納車式の様子

1月12日、朝日地区センターで消防団出初め式が行われ、副班長以上の幹部団員と関係者らが参加しました。出初め式は1年の初めにあたり、防火・防災意識の啓発を行なうだけではなく、危険の伴う災害現場で活動する消防団員にとつては、その安全祈願の意味でも欠かすことのできない重要な行事です。

検閲式後には、今年度の電源立地地域対策交付金事業を活用して更新した小林地区のポンプ車の納車式が行われました。この新たなポンプ車によって消火作業等をさらに迅速に行う事が可能になるのが町民の安心・安全な暮らしに繋がります。

冬は暖房器具等を利用して火災が起きやすい時期ですので「火の用心」をお願いいたします。

行政改革審議会を開催

1月10日に第1回目の行政改革審議会が只見町役場で行いました。

審議会は学識経験者や一般町民の方13名で組織され、会議冒頭の町長あいさつで「平成15年の行政改革から10年、社会の変化もあり子供たちの将来を考え只見町民の生き残りを主眼においた改革を行なう必要がある」と述べられました。その後、会長に任命された菅家 三雄 氏へ第3次只見町行政改革大綱(案)への諮問(意見を求める事)が行われました。今後、審議会では諮問に対する意見交換が行われます。



▲目黒町長から菅家会長へ諮問の様子

行政改革とは…

組織や機能、制度などを改革することで、コスト削減やサービスの向上などを目的としています。

新しくなります



▲見やすく分かりやすいページを目指します

只見町のホームページを現在製作しています。新しいホームページの基本的な考え方は、「誰でも見やすく分かりやすく」です。トップ画面の文字を出来るだけ少なくしてイラストなどを使う事で知りたい情報を見つけやすくする他、音声読み上げ機能や文字サイズの変更機能の追加、携帯電話やスマートフォンでも見やすいサイトへ作り直しております。

新しい町のホームページは4月から公開する予定です。のでそれまでしばらくお待ちください。

奥会津・只見教育振興協力隊

すえ や こうだい
末谷 広太さん

奥会津・只見教育振興協力隊として、末谷広太さんが1月から只見町に住んでいます。
この奥会津・只見教育振興協力隊とは、「山村教育留学生制度」を支援する教育振興業務が主な仕事で留学生の募集活動や都市部におけるPR活動などを行います。末谷さんは宮城県出身で、特技は剣道や水泳との事。また、地域のイベントに積極的に参加していきたいという思いを持っていきますので、町民の皆さんどうぞよろしく願います。



▲町内で見かけたら気軽に声をかけてください

只見の林業を発展させる手がかりに

森林認証制度により森林づくり 研修会

1月22日、朝日地区センターで森林認証制度による森林づくり研修会が行われ約20名の方が参加されました。この森林認証制度とは、適正に管理された森林から産出した木材などに認証マークを付けることで、持続可能な森林の利用と保護を図ろうとする制度です。研修会の講師には日本森林技術協会 関厚氏を招き、制度内容や認証制度の取得方法や費用、現在の日本の木材利用の実情などを話して頂きました。



▲熱心に話を聞く参加者

「自然首都・只見」展
栃木県立博物館で開催

1月11日(土)～19日(日)に、宇都宮市で「自然首都・只見」展を開催しました。

この展示は、只見町の自然・文化を県内外に広く情報発信し、「自然首都・只見」の理念の理解と共有を進めることを目的として行っています。今回は、栃木県立博物館の共催とご協力をいただき、エントランスホールにお

いてパネルと工芸品を主とした展示を行いました。また、12日と13日には、ブナセンター職員による「只見町の自然と暮らし」と「只見町が登録を目指すユネスコエコパークと地域振興」と題した講演会を行いました。土・日・祝日の入場者はおよそ260名、講演会の聴講者はのべ48名であり、宇都宮周辺にお住



▲来場者に只見町についての理解を深めていただきました

まいの只見町出身の方、只見町に思い入れのある方たちなども足を運んでくださいました。来場者は、懐かしい写真に見入り、工芸品についてスタッフと会話をするなど楽しんでいかれました。

▶ 一生懸命みなでお飾りしました



皆 只見保育所で団子さしの心もまあるくなあれ!!

1月10日に只見保育所でだんごさしが行われました。この日は小川の渡部悦子さんと只見の目黒レイさんが只見保育所を訪れ、だんごさしの由来や昔話を子供たちに話してくれました。子供たちは赤・白・緑の3色のだんごを作って大きなミズの木に綺麗なだんごの花を咲かせました。



◀ 団子さしの由来をお勉強中

百 亘 正純 さん(塩沢) 歳賀寿おめでとうございます

亘正純さんが1月16日にめでたく満百歳の誕生日を迎えられ、親族の方同席のもと知事賀寿の贈呈が1月17日にこぶし苑で行われました。

正純さんは元お寺の住職さんで、長寿の秘訣は不平不満を言わず、大らかな気持ちでのんびりと生活することという事です。

これからも大らかなお気持ちで元気にお過ごし下さい。



▲御家族と一緒に記念撮影

南 菅家 ミヨ子さんが優秀賞 会津地方統一防火標語

第31回南会津地方統一防火標語コンクールで、菅家ミヨ子さん(只見)の作品が応募作品数89点の中から優秀賞を受賞し12月19日に南会津地方広域消防本部で受賞式が行われました。

受賞された防火標語は次のとおりです。

【優秀賞】

「気のゆるみ 慣れの怖さが 火を招く」



▲ 優秀賞を受賞された菅家ミヨ子さん(中央)

達 おたっしや教室を開催しています 者で楽しく過ごすために!

老人クラブ等のご協力のもと、新町集会施設、新屋敷集会施設、朝日地区センター、下福井集会施設、蓮ノ原集会施設、沖・根木沢集会施設、長浜集会施設、小林集会施設、梁取集会施設、塩ノ岐集会施設、大倉集会施設、坂田生活改善センター、布沢集会施設を会場として、「ただみコミュニティークラブ」による運動教室を月1回開催しています。対象地区には回覧も回りますので、ご覧になられた皆様の参加をお待ちしています。



▲写真は下福井集会施設



▲写真は長浜集会施設



朝日 手びねり陶芸教室

冬 各地区センターで冬期講座 の間だから出来ること

各地区センターでは、現在様々な冬期講座を行なっております。普段は農作業等で忙しい方もこの冬の季節は時間を作る事が出来、それぞれの講座で作品の製作に精を出されています。

冬期講座で製作中の作品は3月に各地区センターで行われるイベントで展示されますので、ぜひ皆さんの力作を見に行つて欲しいと思います。



只見 エコクラフト教室



明和 つる細工教室

広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 若山 隆



「シップ(貼り薬)の使い過ぎに注意してください」

みなさん、こんにちは。只見へ来て3回目の冬を迎えた若山です。今年の冬は記録的な寒さで、田島では氷点下19.2度となり1月の観測記録を塗り替えたそうですね。でも寒さの割に雪は少なく、雪に悩まされることは少なかったです。

さて、本日はシップの話です。只見でも、腰・膝・肩などにたくさんシップを貼っている方をお見かけします。腰・膝・肩の痛みの多くは、長い人生の中で必死に体を支え続けた結果起こっているものであり、体の老化が原因であるともいえます。手術治療を行う場合もありますが、手術となると負担も大きく、また100%治るわけではありません。そんなときに体の痛みを楽にしてく

れるシップの存在は大変ありがたいものです。

しかし、シップにも欠点があります。シップの有効成分は皮膚から吸収されますが、貼った場所だけでなく、一部は血液に届き全身にめぐります。飲み薬の痛み止めの副作用として胃潰瘍が有名ですが、シップでも胃潰瘍を引き起こしたり、腎臓、肝臓に障害を引き起こす場合があります。もちろんシップかぶれも引き起こすことがあります。やはり、シップの使いすぎには注意が必要になります。

実はこの度、朝日診療所でもシップの処方について見直すことになりました。診療所も保険診療(保険が適用される診療で、患者さんは診療費の自己負担が1〜3割で

済む)を行っていただきますので、保険診療をきちんと行っているかチェックされています。適切なシップの処方のため、一回の診察でシップを10袋以上処方することは控えていきたいと思えます。みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

シップを貼ったからといって、腰や膝の老化が防げるものでもありませんし、痛くないのに貼っても予防になるわけはありません。シップの使いすぎにはご注意ください。



今月の運動

今月の運動は膝痛・転倒予防の運動をご紹介します。

膝が痛くなる原因は、膝のまわりの筋力が低下したことによるものや、バランスを保つためのその他の部分の機能が低下したことなど様々あります。膝の回りの筋肉を鍛える運動については、前回ご紹介したものなどがあります。今回は体を支えている基本となる地面をつかむ力を鍛えるとともに、足の指の動きを取り戻す運動をご紹介します。

体の前にタオルを開きかかとの部分はタオルの外において、両足をグー・パーしながらたぐり寄せていきます。慣れてきたら、片足で挑戦してみましょう。回数目安は5〜10回程度行なうと効果的です。



町民が生んだ只見の宝「民具」⑤

民具保存活用運動から
国文化財指定へ

三十年あまりにわたって収集した民具の整理が一段落し、『図説会津只見の民具』を刊行した後も、民具の収集と整理が続ぎ、その数はまた少しずつ増えていきました。

そんな平成九年の夏、文化庁から一本の電話がかかってきました。補助事業費に余裕があるので、民具の国文化財指定を視野に入れた事業を只見町で受けてみないかというのです。年度途中からでは体制が組めないため、翌十年度から三か年間で補助事業を受けることに決定しました。推進体制は、町長を委員長とする民具活用委員会を組織、諮問機関として民具活用専門委員会が置かれました。

事務局は教育委員会があたり、実行組織として町民五〇名ほどからなる民具と語る会が結成され、現場作業をすることになりました。

文化財の指定を待ちて暑きなか

民具の整理に幾日も通ふ

この句は、民具整理にかかわられた黒谷の鈴木ハナエさんが詠まれたものです。これに象徴されるように、参加した町民が心をひとつにして町の宝を生み出そうという機運が高まっていました。町民による運動は、民具保存活用運動と呼ばれ、マスコミにも取り上げられるようになりました。

国文化財指定をめざす民具整理では、より

状態のよい民具を選び出し、正確な実測図を一点ごとに描かなければなりません。また、損傷箇所は修繕し、失った民具は新たに製作しなければならず、ハードルの高い作業となりました。十、十二年度の三年間で、のべ六四一人もの町民がそうじや整理に協力、実測図の作成では常時二人が担当しました。

さらに武蔵野美術大学の学生たちによる民具の作図や聞き取り調査の応援も受けました。



▲東京での国文化財指定書交付式

これらと並行に進められたのが、民具の製作技術の継承です。町内三小学校の高学年を対象に細工講習会を行い、民具の使用方法をビデオで記録する事業も進められました。すでになくなったマスドールやカンゼンブーシなどの民具を、古老たちによって復元する作業も同時に行われました。

只見方式による整理の現場を見よう

只見町文化財調査委員

新国 勇

と、視察者が多く訪れるようになりました。県内はもとより、北海道や宮城県、新潟県から視察者が訪れ、只見方式による民具整理と只見の民具カードが各地に広まりました。

国文化財指定作業は三年間では終わらず、さらに二年の歳月を必要としました。ようやく農耕用具などの生産用具と仕事着を組み合わせたというテーマが生まれ、作業は急ピッチで進みます。十四年度は、カードの記入や写真のとりまとめに多くの町民が尽力し、同年十一月、文化庁に書類を提出することができました。

翌十五年一月十七日、文化庁の文化審議会が、「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」二、三三三点を国の重要有形民俗文化財に指定するよう文部科学大臣に答申します。その第一報は、大島暁雄文化庁文化財調査官から電話で入りました。「只見町のカードは記述がすばらしく後に続く市町村の見本です。ただひとつだけ委員からクレームがありました。それは、これだけりっぱな民具があるのに収蔵しているだけで一般に見ることができないのは残念です」と言う内容でした。同年三月二十六日、文化庁が主催する指定書の交付式が東京の虎の門で開かれ、指定登録者を代表して小沼昇町長（当時）が謝辞を述べました。

同十七年十一月には、民具と語る会が民俗文化財の保存と伝承に貢献したことにより、町から功労表彰を受賞しました。

民具の整理がはじまってから国文化財に登録されるなかで、町民の心が変わってきたようです。町民に自信と誇りが次第に生まれ、使命感が感じられるようになってきました。自分たちの歴史や文化をたいせつにして、学術的に磨いていけば、国の宝になる。民具整理を通じて、そんなことを教えてもらったように思います。



▲民具と語る会が箕の使い方を指導



町民文芸

只見短歌会

十二月詠草

大塚栄一

指導

受験ゆゑ孫子ら来ぬと電話受けし夫は注連縄買ふを急がず

古川 英子

小倉キミ子

秋菜莢の味見をしつつ歩きをり鈴生りの実の日ごとに甘し

馬場 八智

言ひ訳の手紙漸く書き添へて雪しまく夜に小包作る

新国由紀子

老い父の長き願ひの石南花を咲かせし息子は施設に持ち来

目黒 富子

新雪の降り積む庭に綿帽子を冠りし如く花木が並ぶ

渡部ゆき子

幾度の台風あれど大過なく年越す夕餉の米研ぎ上げる

五十嵐夏美

知恵遅き子がテレビの音高くして厨のわれに民謡聞かす

関谷登美子

鉢植ゑの深紅冴えたるシクラメン見る度ごとくに心和むも

渡部ヨリ子

鼻歌をうたひ器を洗ひゐる五歳の孫に夫と顔合はす

新国 洋子

吹雪くなか花の仕入れの孫送れば帰り来るまで心安まらず

(出詠順)

只見俳句会

一月例会

目黒十一

指導

花型の紙二つ貼る障子かな
大家族十六人のお正月

一 穂

初夢や五億長者の夢醒めな
初手水瞬く星を掬へけり

吉 児

茶の花の枝引き寄せて聞香す
めずらしくバス停に立つ小雪かな

洋 子

白虎隊の舞を納めて十二月
雪空や広報無線テスト中

邦 男

湯豆腐や少し早めに灯す居間
粕汁の湯気に酔いたる夕かな

礼

賀状書く終わりし夜の深眠り
降る雪に負けた年なく百となる

邦 夫

初雪や戯る子らに憂いなし
山肌を白く化粧し冬来る

信

振り返す手へ崩れたるぼたん雪
口喧嘩縄のくいこむ葱を買う

笑 羊

松の内「火の用心」の訪問者
北風に顔背向けつつ回覧板

修 一

八十の女が二人冬夕焼け
掌にのせて装丁の良き日記帳

リウコ

初夢の筋の通らぬあたりまで
子の生まる久しき村や女正月

恒 夫

ふんわりと小雪ただよう冬の晴
晴天や泣く子遠目に障子貼る

都

雪折れの餅に鳥の飛び立ちぬ
雪折れの音する夜の裏の森

又壺歩



自動車をお持ちの方へ

自動車の登録状況を確認してみましょう!

毎年自動車税の納付時期(例年5月)になると、県民の皆様からお問い合わせを多数いただきます。自動車税は4月1日(午前零時)現在の登録名義人である所有者に課税されますので、自動車の売買や転居等をされた場合は次のことにご注意ください。

Q 手放した自動車の納税通知書が届きました。なぜでしょうか?

A 自動車税は、4月1日(午前零時)現在の登録名義人である所有者(割賦販売等で所有権が留保されている場合は使用者)に課税されます。そのため、移転の登録や抹消の登録が行われていないと、もとの所有者に課税されることになります。

自動車を下取りに出したり、他人に譲ったりしたときには、必ず運輸支局で移転登録または抹消の手続きをしましょう。

Q 転居して住民票は移したのに、自動車税納税通知書が届きません。なぜでしょうか?

A 自動車税の納税通知書は、運輸支局に登録されている住所(自動車検査証に記載されている住所)に送付されます。

転居したときには、必ず運輸支局で変更登録の手続きをしましょう。

Q 車検切れとなり使用していない自動車にも自動車税は課税されますか?

A 車検切れの自動車であっても、登録がされている限り自動車税が課税されます。

壊れて動かなくなったり、使用しなくなった車は運輸支局で抹消の手続きをしましょう。

抹消された翌月から月割で課税されなくなります。既に年税額を納めている場合には、抹消した翌月以降の税金は還付されます。

※ 登録に関する手続きは、南会津自家用自動車組合や自動車販売店、整備工場等にお尋ねください。



福島県南会津地方振興局県税部
電話 0241-62-5212
0241-62-5214

お知らせ

Information

電話番号

| | |
|------------|----------|
| 総務企画課 | |
| 総務班 | ☎82-5050 |
| | ☎82-5210 |
| 企画班 | ☎82-5220 |
| 町民生活課 | |
| 税務班 | ☎82-5110 |
| 町民班 | ☎82-5100 |
| 保健福祉課 | |
| 保健班 | ☎84-7005 |
| 福祉班 | ☎84-7010 |
| 産業振興課 | |
| 農林班 | ☎82-5230 |
| 交流推進班 | ☎82-5240 |
| 環境整備課 | |
| 地域整備班 | ☎82-5270 |
| 生活環境班 | ☎82-5280 |
| 会計室 | ☎82-5120 |
| 議会事務局 | ☎82-5300 |
| 農業委員会 | ☎82-5230 |
| 教育委員会 | ☎82-5320 |
| 学校給食センター | ☎84-7180 |
| 只見保育所 | ☎82-2219 |
| 朝日保育所 | ☎84-2038 |
| 明和保育所 | ☎86-2249 |
| 朝日診療所 | ☎84-2221 |
| (歯科) | ☎84-2612 |
| 訪問看護ステーション | |
| | ☎84-2130 |
| こぶし苑 | ☎84-2101 |
| 保健福祉センター | ☎84-7005 |
| 只見地区センター | ☎82-2141 |
| 朝日地区センター | ☎84-2111 |
| 明和地区センター | ☎86-2111 |

税 今月の納期

2月25日までに

納めましょう

- 水道使用料(4期)
- 農集排使用料(2月分)

「申告は正しくお早目に!」

平成25年分の所得税の確定申告の相談及び受付は2月17日(月)～3月17日(月)まで、消費税及び地方消費税(個人事業者)は3月31日(月)までです。

田島税務署の申告・相談会場(田島税務署1階会議室)の開設は3月31日(月)までです。

(注)税務署の閉庁日(土・日・祝日)は、税務署では相談及び申告書の受付は行なっておりません。

(注)本年は、年金受給者の方の申告相談会のご案内はしませんが、お早めに申告・相談をお願いいたします。

「納付の期限をお忘れなく!」

平成25年分の納付期限は、申告所得税は3月17日(月)、消費税及び地方消費税(個人事業者)は3月31日(月)です。

なお、納税は**振替納税**の利用をお願いいたします。

平成25年分の振替日は、申告所得税は4月22日(火)、消費税及び地方消費税(個人事業者)は4月24日(木)です。

(問い合わせ) 田島税務署 TEL0241-62-1230

(音声ガイダンスの後「2」番を選択してください。)

町長の手帳

町長スケジュール (1月分)

- 5日 只見町新年交歓会
- 6日 仕事始め式(広域消防署只見出張所、こぶし苑、役場本庁)、辞令交付式
- 7日 庁議
- 8日 年賀知事懇談会(福島市)、県関係機関及び新聞社等年賀挨拶(福島市)
- 9日 JA会津みなみ只見支店竣工式
- 10日 只見町行政機構改革審議会
- 12日 只見町消防団消防出初式、消防ポンプ車納車式
- 13日 只見ふるさとの雪まつり雪運搬開始式
- 14日 只見町振興推進協議会
- 15日 只見町商工会新年懇親会
- 16日 町長を囲む懇談会(長浜集落)
- 18日 町長を囲む懇談会(熊倉集落、荒島集落)
- 19日 町長を囲む懇談会(塩沢集落、八木沢集落)
- 20日 第6次振興計画実施計画町長ヒアリング、東邦銀行親和会新年会
- 21日 南会津地方広域圏組合第1回管理者会(南会津町)、ふくしま奥会津・西会津交流フェア(東京)
- 22日 JR只見線検討会議(郡山市)
- 23日 第6次振興計画実施計画町長ヒアリング
- 24日 雪まつり実行委員会、職員退職者連盟只見支部総会、
- 25日 「自然首都・只見」学術調査研究発表会・懇談会、毎日新聞社との会食
- 26日 第41回只見毎日杯GS大会、町長を囲む懇談会(蒲生集落、只見・笹ノ川・黒沢集落)
- 27日 南会津地方環境衛生組合予算査定(下郷町)
- 28日 福島県町村会役員会(福島市)
- 29日 只見町議会全員協議会
- 30日 西白河郡と南会津郡との災害時相互応援協定締結式(白河市)
新潟県三条市と南会津郡との災害時相互応援協定締結式(南会津町)

「三条市との連携」

今年は例年になく雪が少なく、穏やかな冬を迎えています。大寒の時期も雨が降ったり、陽が射したり、そうこうしているうちに立春を迎え雪まつりとなりました。雪像作りも天気にも左右され、職人さん達は大変苦労された様子ですが、お陰様でスケールの大きい立派な雪像ができ、多くの関係者の皆さまに心より感謝を申し上げます。林道やJR只見線など残された災害復旧とユネスコエコパークの登録、そして町民の幸せを祈願してこの雪の祭典を契機に町の元気と誇りを町民一丸となって取り戻してゆきたいです。

先月19日より「八十里越物語展」が、三条市の諸橋徹次記念館、長岡市のアオーレ長岡、加茂市の加茂文化会館を会場に1カ月に渡りリレー形式で開催されており、冬期休業している河井継之助記念館から貸し出された30点あまりのゆかりの遺品が並べられました。この企画展は3年前、新潟・福島豪雨で被害を受けたことから互いに励まし合いたいと、三条市の歴史研究家グループでつくる実行委員会で企画、主催されているものです。展示会場の雰囲気は只見の河井継之助記念館の紹介そのもので、終焉を迎えた館の移設、そして記念館を設立した人達が住む只見の地へ1度は行ってごらんといった誘いの思いが込められた企画展には感謝します。1月末には三条市と災害時における相互応援協定を交わしました。三条市との連携、交流の促進は新しい「八十里越物語」の誕生、八十里越の早期開通へとつながってゆきます。

只見町長 目黒 吉久

町民の消息

(1月1日~1月31日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

新 國 花 暖 (女/健 道・米 子) 熊 倉

■おくやみ申し上げます

| | | |
|---------|-----|-----|
| 三 瓶 冬 野 | 91歳 | 深 沢 |
| 酒 井 タミエ | 94歳 | 長 浜 |
| 星 秀 雄 | 80歳 | 楢 戸 |

人のうごき

平成26年1月1日現在

人 口 4,659(ー 7)
 男 2,262(ー 2)
 女 2,397(ー 5)
 世帯数 1,815(± 0)
 高齢化率 42.4%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 5 転出 8 出生 1 死亡 5

あとながき

▽今月号の表紙「梁取早乙女踊り」を取材させて頂きましたが、子供から大人までみんながこの行事に取組み、楽しみながらも演者へはしっかりと指導する様子を見て、こういう事が積み重なって「伝統」になっていくんだと感じ本当に良い取材をさせて頂いたなと思いました。
 ▽このあとながきは2月3日に書いていますが、雪まつりのメインストーリーも着々と製作が進んでおり、只見町最大のイベントはついに今週末。こちらは来月号で皆さんにお伝えします。

(吉津)

まちづくり推進員
渡部 敦子

明和地区センター
図書室 ☎86-2111

おすすめ新着図書

★マッチ箱日記



ポール・フライシュマン
文/バグラム・イバトゥー
リン絵(BL出版)

小さなマッチ箱につめられた、少年時代のささやかな喜び、多くの苦勞、家族の絆。イタリア移民の主人公は、一つ一つを開けながら、幼い孫にその思い出を語ります。アメリカに行く船の中で初めて飲んだ瓶の飲み物の王冠。差別にあい石をぶつけられて折れた歯。初めて見た野球の試合のチケットの半券。「何年もの間大切にされた古いものには、お話があふれている。持っていた人みんなの日記だ。」ものを大切にすることは、時間、ひいては人生を豊かにすることに繋がるのかもしれない。余韻の残る絵本です。

★12ヶ月の多肉植物の寄せ植えレシピ



黒田健太郎著(グラフィック社)

「ガーデニング」という言葉も耳に馴染んだものになりましたが、多肉植物というどちらかという地味な印象をお持ちの方が多いのでは?この本を読むと多肉植物の独特な色、形の多彩さに目からうろこ。个性的で洗練されたアレンジの寄せ植えを、春になったら試してみたくりますよ。

★その他、メディアにも多数取り上げられたおいしい病院食のレシピ本、人気キャラ「なめこ」による文学全集、映画化原作「パーシー・ジャクソン」シリーズなどなど。全タイトルは明和地区センターブログをご覧ください。リクエストも随時受付中です。

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

町民憲章

1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

テン (ホンドテン) (学名: *Martes melampus*)

[イタチ科テン属]



夏毛(2013/9/28撮影)



冬毛(2014/1/4撮影)

テン(ホンドテン)は、本州、四国、九州の低山地から亜高山帯の森林に生息しています。体長40~50cmほどのイタチ科の哺乳類で、亜種のツシマテンは、国の天然記念物に指定されています。

鳥類、ノネズミ類、両生爬虫類などの小型動物、昆虫などを食料にするほか、果実類も食べる雑食性です。春から秋にかけては、ヤマザクラやクワ、マタビなどの種子がテンの糞に見られます。冬場になると餌となる果実類が無くなることから肉食性が強くなり、性格も多少凶暴になるといいます。

テンは、冬になると毛の色が鮮やかに変化します。夏毛は、顔と四肢が濃い褐色で、胴体の色は、鮮やかな黄色(キテン)から褐色(スステン)まで個体差があります。冬毛は、顔が白く四肢は濃い褐色になり体が鮮やかな黄色に変化します。行動時間は特に決まっておらず、昼夜問わずに活動します。冬眠はしません。

只見町内のほぼ全域に生息し、特に冬場になると、池の魚や残飯などを狙って人家周辺に現れます。

テンの毛皮はとても美しく高価であったため、里周辺で罟を使った仕掛で捕えていたようです。また、床の間の飾りものとして、テンの剥製が多く作られています。

企画展示

旧田子倉集落の生活と文化
【ふるさと館田子倉コレクション】

1月5日(日)~4月14日(月)までの期間で開催

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

この度の企画展は、田子倉出身の^{みなかわわたる}皆川弥氏が田子倉集落の歴史を保存し、後世に残すことを目的に設立した「ふるさと館 田子倉」の展示物をお借りして展示を行っています。

(お詫びと訂正)

広報ただみ1月号で上記企画展について「渡部 弥氏」とありましたが正しくは「皆川 弥氏」です。大変申し訳ありませんでした。お詫びして、訂正いたします。

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています